



旅好きな磯丸

歌

を詠む多くの人がそうであつたように、磯丸もまた旅が大好きでした。新城の山奥や浜松、長野といった三遠南信地域をはじめ、海を渡った知多半島や三河の各地をよく訪れ、遠くは京都や江戸、伊勢や尾張などといった場所も訪れています。磯丸は旅先でも多くの歌を詠んでいます。

神様になった磯丸

また、同じ時代を生きた渡辺華山かざんとも天保4年(1833)に会っていることが記録に残されています。

老

若男女、貧富の差を超えて多くの人々から大事にされ、時には生き神様とあがめられた磯丸。嘉永元年(1848)、生まれた日と同じ5月3日に伊良湖で85歳で亡くなりました。

磯丸を敬い好きだった人々は、磯丸を神様として祀ることを願いました。嘉永3年(1850)、磯丸の功績が認め

られ「磯丸霊神」という名前が与えられ、神様となりました。伊良湖をはじめ近在の人々は、さつそく「磯丸霊神祠」をつくり磯丸の生家の庭に安置しました。この祠は、現在、伊良湖神社境内に「糟谷磯丸旧里」の石碑とともにあります。

「私の歌で決して病気が治るということはありませんが、皆さんの心が安まるようにと、私は歌を詠んでいるのです」と話したという磯丸。偉ぶることなく謙虚で気さくな人物だったようです。

時代を超えて愛される磯丸

今

今年、平成26年は磯丸生誕250年の記念の年です。

伊良湖町では地域の方々を中心として記念事業実行委員会が組織され、市民に磯丸のことをもっと知ってもらおうと、数年前から準備を行ってきました。市内の

全小学生に磯丸を解説した冊子を配ったり、記念式典を11月23日(日・祝)に企画したりしています。

感謝のしるし 磯丸灯籠

現在の伊良湖神社は4月の「御衣祭」や大みそかの「ごせんだら」でよく知られています。

神社に入り玉砂利を進み左に曲がると階段があり、その階段を上った左右に石で造られた大きな灯籠が二つあります。これは、浜松や三河の宿場の人々が奉納したものです。古い記録には、「磯丸のまじない歌によって、天竜川の水害が静まったり、病気が治ったりして多くの人が助けられた。磯丸の歌の効果に感謝して、この灯籠を奉納した」と書かれています。

この二つの灯籠は磯丸灯籠と呼ばれています。



【参考文献】新編磯丸全集(編：愛知県教育会)／伊良湖の歌ひじり 糟谷磯丸(著：安江茂)

